

情報の科学 学習指導案

<指導教員> [REDACTED]

<授業者> [REDACTED]
[REDACTED]

1. 実施日時 2021年6月7日(月) 5.6限

2. 場所 LAN教室

3. 対象 1年2組 40名

4. 単元 情報モラル

5. 単元目標

これから情報社会を生きていく上で必要となる態度や考え方、情報モラルについての知識を養う。また、トラブルに巻き込まれた時のために対処方法を考えることができる。

6. 教材観

普段の生活でよく使われている言葉である「まじめ」、「おとなしい」、「一生懸命」、「個性的」、「マイペース」を用いることで、生徒は質問の情景を頭に浮かべやすく、自分と他人の考え方や感じ方の“ちがひ”についての理解をより助ける教材である。また、生徒に見せる動画は、登場人物が小学校6年生であり、内容も難しくない。小学校6年生時点でスマートフォンを所有していた生徒も多く、過去の自分に厳しいアドバイスを送ることを想定することで、多様な意見を引き出すことができる。

7. 生徒観

スマートフォンを所有する生徒が多く、インターネット環境に日常的に触れていることもあり、コンピュータの扱いには長けている。しかし興味が先行し、指示の先のことをしてしまう生徒が多い。また、自分の気持ちを素直に表現することができず、「先生に求められる解答をしてしまう」生徒が一定数存在する。

8. 指導観

情報モラルの学習にあたって、トラブルの原因となる自分と他人との考え方や感じ方の“ちがひ”について理解させるために、言われて嫌な言葉を個人で考え、その後他人の意見を聞き、その理由を知った上でどう思ったかをまとめさせる。その後、実際にあった情報のトラブルの動画を見せ、どうすればよかったのかを考えることで、自分の身に降りかかった時に対応できる力を身に付けさせる。実際に起こった事例を用いることで、自分にも起こりうることでありと理解させ、マニュアル的な対処方法ではなく、“自分だったらどうするか”を考えさせる。

9. 本時の展開

I 本時目標

- ・自分と他人の考え方や感じ方の“ちがひ”について理解する。
- ・スマホトラブルの原因を発見し、対処方法を考え、実践できる。

II 評価基準

a.関心・意欲・態度	b.思考・判断・表現	c.技能	d.知識・理解
身近な問題として、主体的にワークに取り組もうとしている。	自分と他人の考え方や感じ方のちがひについて考えている。実際のトラブルに対して適切な方法を判断し表現している。	自分の考えを他人に表現するために情報ツールを活用できる	自分と他人の考え方や感じ方の“ちがひ”について理解している。

III 学習過程 1時間目 情報モラルとは

	学習内容	留意点	評価基準
導入 10分 (10分)	1.情報モラルの学習の前に、チェックシートを配布し、学習前の状況を確認する。 2.情報モラルの言葉の意味を学ぶ。	・生徒によってチェックシートの進行に差が生まれるので時間に配慮する。正直に答えるように促す。	これまでの学習を振り返り、ワークに取り組んでいる。 【関意態】
展開 30分 (40分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> クラスの友達から言われて嫌だなと感じる言葉はどれ？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 真面目だね、おとなしいね、一生懸命だね、個性的だね、マイペースだね </div> 3.イヤな言葉を選び、その理由を入力する。 4.全員で結果を確認し、自分と他人で“ちがひ”があることを確認する。 5.言葉を選んだ理由を全員分確認し、様々な考えがあることを示す。	・1番イヤな言葉を選ぶように伝える（順位付けではないことを確認する） ・人それぞれ選んだ言葉とその理由にはちがひがあることをどう思ったか、感想を書かせる。 ・動画をみた上でワークをすることを先に伝えてから動画をみせる。	実際に言われたことを想定し、ワークに取り組んでいる。 【関意態】 自分と他人の考え方や感じ方について考えている。 【思判表】 自分と他人の“ちがひ”について理解している。 【知理】

	6.スマホトラブルについての動画を視聴する。		
まとめ 5分 (45分)	7.動画のあらすじを確認する。	・後ほどグループで考える時間を設けるため、個人で考えることを強調する。	

2時間目 スマホトラブルの対処方法

	学習内容	留意点	評価
導入 5分 (5分)	1.個人で、動画の登場人物のダメだったところを考える。	・あらすじと動画を見て内容を思い出させワークに取り組ませる。	
展開 25分 (30分)	2.個人で考えた後、グループでは「どうすればよかったのか」について話し合い、ツール(ここではjamboard)を用いて意見をまとめる。 3.各班のjamboardを紹介する。	・些細なことでも積極的に書き出すように促す。 ・面白い意見、意外な意見を事前にピックアップしておく。	自分の考えを基に対処方法を模索する。 【思判表】 自分の考えを、ツールを用いて表現することができる。 【技能】
まとめ 15分 (45分)	4.Slackを用いて本時の振り返りを行う。 5.振り返りが終わった生徒から、他の班の意見を確認する。	・ネット環境が不安定な場合、wordなどに文章を書かせて、後からSlackに入力させる。 ・振り返りが終わった生徒には、他の班の意見を見て感じた、意外と感じたものを書き出すように声を掛ける。	自分と他人の“ちがひ”について理解している。 【知理】